

取組実績の概要（2 ページ以内）

本事業は「卒業時における質保証の取組の強化」を全学的に行うものである。特に、ディプロマポリシー（DP）を担保する「多様なスポーツリーダーとしての自覚と実践的なスポーツ指導力の養成」及び「段階的かつ継続的なライフ・キャリアデザイン力と社会人基礎力(汎用的力)の養成」の状況を、学修行動や学修成果の可視化から確認し、継続的に教育改善が行える教学システムを確立することを目指した。

その結果、【1】科目群毎やDPで目指す12の資質・能力に関する授業科目毎のGPAを可視化すること、【2】標準化された「汎用的能力テスト（PROGテスト）」を柱とした学修成果を可視化すること、【3】基礎的なスポーツ指導力の学修成果を可視化すること、【4】学修行動等を可視化することを実現した。これにより、令和3年度からの新教育課程の構築に向けた改訂作業を、学生の実情を踏まえたエビデンスベースで行えるようになった。例えば、4年次の11月から2月の卒業研究を仕上げる学びを通じて、学生の課題解決力等の急激な成長を確認し、卒業研究における学修効果や課題について把握できた。加えて、卒業時及び卒業後（卒業後3年と10年）の学生に対しても、学修成果に対する満足度等のWeb調査を継続できる体制を整備するとともに、その情報を基に継続的に教育改善が行える教学システムを確立した。

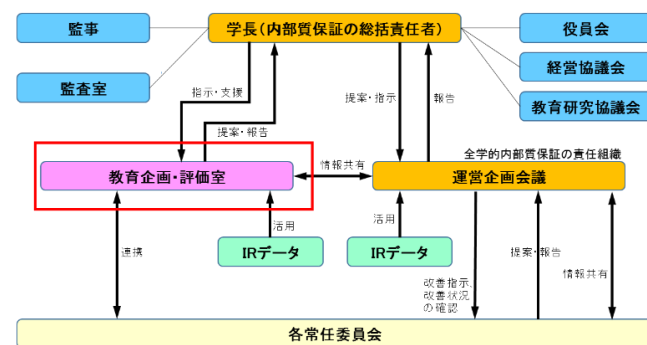
また、可視化した学修成果を学生自身で振り返る学修ポートフォリオの構築（NIFSpass）やDPを意識した授業振り返りアンケートへの改編作業は、学生及び教員へ授業科目とDPで目指す学修成果との関係を強く意識づけさせることに繋がった。改編した授業振り返りアンケートからは、各科目のDPの学生自身が評価する理解度や達成度等も明らかにし、教員間で共有できるようにした。さらに、その評価を用いて教員の授業力に対する顕彰制度も令和元年度より実施し、教育改善が積極的に推進されるようにした。

一方、本事業の評価を行うために、専門知識を有した大学教員やスポーツ指導者養成団体関係者、「スポーツ指導実習」の受入先のステークホルダー(民間団体・産業界等)を外部評価委員として委嘱し、事業計画に基づく進捗状況の確認・評価、教育の質保証に向けた取組に対する示唆を得た。なお、外部評価委員会は、平成29年度に1回、平成30年度に2回、令和元年度に1回実施した。

今後も「教育の質保証」の観点から、学長傘下の教育企画・評価室が中心となり、学生の学修行動や学修成果の可視化を図り、継続的な教育改善に関する情報提供や提言を行う。そのためにも、令和元年度に、AP、CP、DPの達成状況を全学レベル、教育課程レベル及び科目レベル別に測る教学アセスメント・ポリシーを整備した。まだまだ達成すべき課題や改善課題は残るが、以上のようにAP事業を通じて「卒業時における質保証の取組の強化」を継続的に実施しえる環境や体制を整備でき、大学改革は加速している。

なお、本事業における本学の教育の質保証の取組は、他の大学等で参考になる事業成果として、スポーツ指導力の可視化の一環として「スポーツ指導力に関わるプロフィール型テスト（通称：SCCOT:Sports Coaching Competency Testの略）」を開発したことである。SCCOTは、現在日本のスポーツ界が目指している「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断スキル」を測るものである。このスキルが高く判定されるほど、昨今スポーツ界で問題視されている体罰等について、「体罰は指導に有効ではない」「スポーツ指導に体罰は必要ない」という態度を強く持っていることがわかるようにしている。本学では、この行動・判断スキルをスポーツ指導力(者)の基礎力として捉え、学生の学びの成果や教育効果としてテスト結果を提示している。現在は、他の体育系大学やスポーツ競技団体等と協力して、本テストの試験的实施やスポーツ指導者のための適性判断などにも活用できるように、環境整備を進めている。SCCOTの普及により、スポーツ指導者の資質・能力の可視化、さらには、倫理観のある(暴力・体罰等を行わない)スポーツ指導者の研修や養成

鹿屋体育大学内部質保証体制図



が可能となると考えている。

【必須指標の達成度】

	平成 28 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
学生の授業外学修時間	5. 2h/週	8. 0h/週	6. 6h/週
事業計画に参画する教員の割合	97% (60 人 /62 人)	90% (56 人 /62 人)	97% (57 人 /59 人)
学生の成績評価 (GPA)	2. 58 (平均)	2. 70 (平均)	2. 72 (平均)
進路決定の割合	92. 5% (184 人 /199 人)	95% (181 人 /190 人)	95% (178 人 /187 人)
質保証に関する FD・SD の参加率	97% (60 人 /62 人)	90% (56 人 /62 人)	100% (57 人 /57 人)
卒業生追跡調査の実施率	0% (0 人 /400 人)	20. 0% (80 人 /400 人)	22. 7% (66 人 /290 人)